

令和6年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		「夢や希望を持ち、目標に向かってたくましく、しなやかに生きる生徒の育成～明るく、わ(和)・輪のある学校～」		
推進主体		研究推進委員会(管理職、研究推進担当、兵庫型学習システム担当、国語科・数学科・英語教科担当、特別活動担当で構成)		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	<p>◇「読むこと」領域の二つの問題の正答率が全国平均を10ポイント程度上回った。物語文の表現・描写の読解力の定着がうかがえる。</p> <p>◇「我が国の言語文化に関する事項」の問題の正答率も概ね全国平均を上回った。言語知識の定着がうかがえる。</p> <p>◆「書くこと」領域における「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書く」記述式問題の正答率が5割程度(全国47%)であり、課題である。読書経験を豊かにするとともに、文章の表現方法の吟味、文脈の把握、適切な語句の選択等、自分の文章を添削、修正、推敲する学習経験を積ませたい。</p>	
		算数	<p>◇「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の4領域で、いずれの領域も正答率が全国平均を10ポイント程度上回っている。</p> <p>◇「記述式」の正答率が全国平均を20ポイント程度上回っており、無回答率も低い。</p> <p>◆図形領域の正答率が46.3%(全国33.2%)で、4領域の中では低い結果となった。図形概念の形成プロセスに着目し、具体物操作を重視し、身体操作に根付く概念形成を促したい。</p>	
定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)		<p>◇生徒の定期テストへの意欲は高く、時間を有効に活用し、計画的に学習に取り組む姿勢が高まってきている。</p> <p>◆テストの得点のみならず、学習方法やその過程を振り返り、自分に適した学習方法を身につけていくことが課題である。</p>		
授業等からうかがえる状況(各教科)		<p>◇落ち着いた学習に取り組むことができる。グループでの学びの機会を意図的に組み入れた結果、授業における生徒間の対話が増え、友達の見解を大切に共に学ぶ雰囲気が高まってきている。</p> <p>◆自身の経験や、過去の学びと今学習していることを比較したり関連付けて考え、根拠を明確にして自分の考えや意見を筋道を立てて説明する力を高めていくことが課題である。</p>		
慣学・力向上に慣れ等る学力的状況	全国学力・学習状況調査の質問の状況	<p>◇「自分にはよいところがあるといますか」の肯定的回答が82%、「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答が63%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答が89%である。社会と関わりながらより豊かに生きる生徒を念頭に、学校生活を通じて、自分のキャリア形成に関わる非認知的能力を高める支援を進める。</p>		
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<p>◇「生徒は、授業に真剣に取り組む、わかりやすいと言っている」の肯定的回答が94%であり、多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。</p> <p>◆「生徒は、自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている」の肯定的回答が72%であることから、さらに学ぶことの良さを実感するような学習支援を行い、個に応じた学びのスタイルを身に着け進んで実践できる態度を養ってきたい。</p>		
授業改善	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	<p>◇学級指導を軸とした生徒の心理的安全性を基盤として、協働学習を教科横断的に積極的に推進し、自分の考えを表明し、他者の考えに触れて、多様な考えの良さへ共感したり、自分の考えと比較検討して考えを深める学習指導を実践する。</p> <p>◇ミライシードをはじめとした学習支援アプリを効果的に活用した学習指導を実践する。問題の反復演習による基礎基本の定着や、スライドによる個々の考えの共有など教科で共通の取り組みと、教科の特性に応じた取り組みを同時進行で進めていく。</p>		
	ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	<p>◇昨年度は、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善→iPadの効果的な活用推進→を研究テーマとし、『資質・能力の三つの柱』を念頭に、iPadの効果的な活用推進を軸として授業改善を進めてきた。今年度は、『心かよいあう学校“つながる”“つなぐ”支援を目指して～さめ細やかな不登校対応と不登校未然防止の取り組み～』を研究テーマとして研究を進める。</p>		
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	<p>◇昨年度は、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善→iPadの効果的な活用推進→を研究テーマとし、『資質・能力の三つの柱』を念頭に、iPadの効果的な活用推進を軸として授業改善を進めてきた。今年度は、『心かよいあう学校“つながる”“つなぐ”支援を目指して～さめ細やかな不登校対応と不登校未然防止の取り組み～』を研究テーマとして研究を進める。</p>		
	校内研修の状況	<p>◇昨年度は、学習場面におけるiPad効果的な活用を推進するため、『ミライシード』各機能の活用に関わる研修を実施した。各教科の実践交流を通じて、「生徒の学びの姿」からさらなる授業改善につなげるために、継続して研修を推進する。</p>		
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	<p>◇子どもの教育に対する関心が高い家庭が多く、学校教育活動にも協力的である。生徒がボランティア活動などを通して地域で活動し、交流を進めている。</p>		
	小・中における教科連携等の状況	<p>◇年度当初に小学校と連絡を取り合い、「生活・学習習慣」や「学習指導」についての交流を行う。</p> <p>◇「道徳・人権教育」の年間指導計画(カリキュラム)の小中間の交流を進めている。</p> <p>◆授業の見学などを通じて保幼小中間の交流を進め、発達段階に応じた工夫をした取り組みを共有するとともに、学習指導の充実を図ることが課題である。</p>		
4月				
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標	具体的な行動目標	
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立等)	
		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価	
1. 授業改善 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実		<p>〈学校評価アンケート〉</p> <p>○生徒アンケートにおいて、「生徒は授業に真剣に取り組む、わかりやすいと言っている。」では、肯定的回答が94%以上(昨年94%)。</p> <p>○生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」では、肯定的回答が92%以上(昨年92%)。</p> <p>○生徒アンケートにおいて、「生徒は、自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」では、肯定的回答が75% (昨年72%) を目指す。</p> <p>〈全国学力・学習状況調査〉</p> <p>○生徒質問紙(41)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的回答が86%(昨年83%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(40)「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的回答が88%(昨年85%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(36)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定的回答が62%(昨年58%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(47)「国語の勉強は好きですか」では、肯定的回答が64%(昨年61%)</p> <p>○生徒質問紙(55)「数学の勉強は好きですか」では、肯定的回答が70%(昨年67%)</p>	<p>○個別最適な学びと協働的な学びの両輪で授業を構成し、その実現のためにICTを効果的に活用する。</p> <p>○各教科の専門性に応じて、ICTの効果的な活用場面を検討し、積極的に実践を行う。</p> <p>○「自分にもできた、分かった」と生徒が実感できる授業の工夫をする。</p> <p>○生徒が自分の学びを調整し、個に応じた最適な学び方を培うことができるよう「めあて(見通し)」と「振り返り」を取り入れた授業を行う。</p> <p>○生徒が互いに意見を交流し、考えを広げたり深めたりできるよう、協働的・探究的な学習を積極的に取り入れた授業を行う。</p> <p>○課題や目的に応じて、「図・表・グラフ」などの資料を効果的に提示し、根拠を明らかにして、生徒が自分の意見を他者に伝えるように工夫して述べるとともに、多様な他者の考えや価値観に触れる機会を作る。</p> <p>○「授業参観weeks」で、全教員が互見授業をおこない、「生徒の学びの姿」を授業改善につなげる。</p> <p>○校内研修及び、研究授業を積極的に実施する。</p>	
2. 学びを人生に生かす態度の涵養 ・学びを調整する力 ・自己理解/キャリア形成 ・地域社会との関わり		<p>〈全国学力・学習状況調査〉</p> <p>○生徒質問紙(16)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では、肯定的回答が72%(昨年69%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(42)「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」では、肯定的回答が80%(昨年77%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(7)「将来の夢や目標を持っていますか。」では、肯定的回答が66%(昨年63%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(4)「自分には、よいところがあると思いますか。」では、肯定的回答が85%(昨年82%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(11)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、肯定的回答が93%(昨年93%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(8)「人が困っているときは、進んで助けていますか。」の項目で、肯定的回答が92%(昨年89%)を目指す。</p> <p>○生徒質問紙(29)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、肯定的回答が50%(昨年38%)、(30)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では、肯定的回答が80%(昨年77%)を目指す。</p>	<p>○各教科で計画的に家庭学習の課題を提示し、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>○定期考査ごとにテスト計画表を作成し、生徒が目標に沿った学習計画を立て、実行し、振り返りを行い、行動を改善できるような指導する。</p> <p>○定期考査前のNo部活Dayや長期休暇に学習相談を実施し、それぞれの生徒が自分のペースで学べるよう支援する。</p> <p>○通信等を通じて、科学的根拠に基づいた学習方法について各家庭への啓発を行う。</p> <p>○校区連絡会において、家庭学習の現状を交流し、改善点を探る。</p> <p>○キャリアパスポートの取り組みを通じて振り返り、学期ごとに目標を明確化して自己の成長を自覚できるよう支援する。</p> <p>○学活・総合等の取り組みを通じて、自己のキャリア(進路)について考えを深めることができるよう指導する。</p> <p>○生徒が地域の行事に参加しやすいように、アナウンス、啓発や学校行事の調整などの環境整備を行う。</p> <p>○生徒会活動を軸に、地域との交流を推進する。</p> <p>○「服のチカラプロジェクト」を実施し、地域と協働する。</p>	
3. 小中連携の充実		<p>○義務教育9年間の系統的な学びを支える、教育カリキュラムの連携</p> <p>○中1ギャップの軽減</p>	<p>○校区小学校と「学習指導」、「生徒指導」、「生活・学習環境」、「特別支援教育」、「保健指導」等の5つの柱を軸に連携を進める。</p> <p>○校区小学校の研究発表会に参加したり、中学校の研究授業や研修に校区小学校の先生を招くなど、授業交流を進める。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の合同分析を行う。</p> <p>○入学説明会を実施する。</p> <p>○校区小学校で出前授業を実施する。</p>	
4. 読書活動の充実		<p>〈学校評価アンケート〉</p> <p>○生徒アンケートにおいて、「生徒はよく読書をしている。」の項目で、肯定的回答が51%(昨年48%)を目指す。</p> <p>〈全国学力・学習状況調査〉</p> <p>○生徒質問紙(24)「読書は好きですか」では、肯定的回答が78%(昨年75%)、(20)「学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、読書を読みますか」では、10分以上と回答する生徒の割合が50%(昨年43%)を目指す。</p>	<p>○1、2年生で朝読書を実施、読書習慣の涵養をはかる。</p> <p>○生徒会図書委員会の取り組み(おすすめ本の紹介など)を通じて、読書活動を推進する。</p> <p>○図書ボランティアと連携し、学校図書館の環境整備や昼休みの図書館の開館・本の貸し出しなど学校図書館の利用を促進する。</p> <p>○「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」を効果的に活用し、生徒の読書に対する意欲を高める。</p> <p>○各教科の学習において、学びを支える語彙の獲得の重要性や、読書の良さを実感する指導を進める。</p>	